

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	横浜市奈良保育園
経営主体(法人等)	横浜市
対象サービス	保育所
事業所住所	〒227-0036 横浜市青葉区奈良町1843-1 Tel:045-961-6276
設立年月日	1975(昭和50)年5月1日
評価実施期間	平成22年10月～平成23年3月
公表年月	平成23年3月
評価機関名	コモンズ21研究所
評価項目	横浜市版
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
<p><園の概要・特徴> 横浜市奈良保育園は横浜市立の認可保育園で、昭和50年5月に開園しました。東急こどもの国駅から徒歩12分で、周辺には大型団地もある住宅地の中にあります。近くに児童厚生施設「こどもの国」を始め、公園や田畑がある緑の多い環境です。在籍数60名（定員66名）の小規模園で、一人ひとりの子どもや保護者と全職員が交流する家族のような保育園です。特別保育として、障害児保育や地域の子育て支援を行っています。保育目標「健康な体をつくろう・たくさん遊ぼう・楽しく過ごそう」を日常の保育で実践しています。</p>	
<p><特に優れている点></p> <p>1. 職員主体でユニークな保育環境～園庭づくりを工夫 自主性を育てるための環境づくりに力を入れており、園庭には築山を作り、丸太を置き、ロープブランコ等を設置しています。「面白そう」「やってみたい」と子どもの意欲をわかせる園庭づくりを目指し、職員が自主的に取り組んでいます。 保育室内では、遊びの種類ごとにコーナーを作っています。遊びごとに分けられたおもちゃ箱から自由に玩具を出し入れできるなど、環境設定を工夫しています。 また、子どもの意見やつぶやきを大切にしています。お楽しみ会では、子どもがストーリーを考えた不思議なレストランで不思議な食べ物を食べる「お宝ハンター」を演じています。紐を結んでつなげる遊びから、子どもの発想を取り入れた「レスキューごっこ」に発展させました。握力、腕力、バランス感覚を養う取り組みとなっています。 子どもの意欲を引き出す環境構成や自由な発想を重視し、余裕を持った生活の流れができるよう見通しを立てた指導計画を作り、主体性や創造性を伸ばす取り組みとなっています。</p> <p>2. “かかりつけ保育園”や専属コーディネーターが関わる地域子育て支援 地域子育て支援事業の一環として、登録制の子育て支援の“かかりつけ保育園”（緑区実施の「子育て応援保育園」）を実施しています。利用者は3歳までの子どもと妊婦も含めた保護者で、開設されて3年目で60名の登録者がいます。 家庭で保育している地域の親子に実家のように気軽に来園してもらい、“かかりつけ保育園”として、子育ての不安解消やリフレッシュに利用されています。遊びや育児のヒントを提案し相談に応じ、子育て情報や親子で過ごせる場の提供をしています。また、無料（1組1回に限る）でふれあい給食を実施し、園児と給食を一緒に食べる体験を通して子どもへの理解を深め、子育てが楽しくなるように支援しています。</p>	

青葉区の市立保育園として、今年度は、子育て仲間が気軽に立ち寄り、交流できる場として「ひだまり広場」を開催しています。地域の親子同士の仲間づくりを支援するため、外部から経験豊かな専属コーディネーターを配置し、遊びの提供や継続的な交流を実施しています。育児講座、育児相談、施設開放、交流保育など子育て支援事業を計画的に実施し、年間のデータを分析し次年度の計画や活動に反映させています。

3. 親の代からの結びつきによる盛んな地域交流

設立35年という歴史があり、卒園生の子どもも入園してきています。そのため地域との交流も盛んで、保護者と地域の方が共同で園庭整備に協力しています。近くの工務店の大工さんが丸太などの遊具やはしごを作ってくれたり、山の土をもらってきて、築山を築いています。田んぼづくりや稲や野菜の栽培では、農家の方の助言で実りを迎えています。魚屋さんが来園し、鮭の解体を実演してくれました。

また、園で緑のカーテンとして栽培したゴーヤを佃煮にして、レシピや種を添えて、近隣に配っています。さらに、給食室から出る生ごみを処理機で堆肥にして近隣に差し上げる等、園から地域への発信もあり、双方向の交流が行われています。

地域防災訓練を、学校、自治会、保育園、地域住民と一緒にしています。地域ケアプラザのお祭りでは、園児の作品を出品したり、デイサービスの高齢者と七夕交流や食事会などでふれあう機会を設けています。親の代から続く地域にある保育園として、あたたかい見守りの中で子どもたちは豊かに育まれています。

<改善を期待したい点>

1. 保護者に向けて理念・方針の理解を深める取り組みを

理念や方針をより具体化した行動指針である保育目標は園内の各所に掲示され、職員や保護者への意識づけをしています。しかしながら、保育課程の内容や理念や方針について、園内掲示やパンフレットへの記載はありません。利用者家族アンケートでも、他の項目に比べて理念や方針への周知が低めです。実際の保育活動では、理念・方針が見事に反映された保育の実践がされています。今後は、保護者に向けて、園独自のアンケート等で基本理念や方針のもとに園運営が行われているということを保護者がどのくらい認識しているか、把握することが望まれます。

2. ボランティア受け入れに対する書類の整備を

ボランティアに対する注意事項、保健衛生、利用者への配慮などがまとめられた「ボランティアのしおり」があり、ボランティアに対して説明がされています。しかしながら、ボランティアの受け入れに対する利用者や職員への基本的な考え方・方針について、十分な説明や資料がありません。受け入れ方針を明記し、職員や利用者に対して、ボランティアの意義や園での役割について周知することが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重

- ・「子ども一人ひとりに寄り添う保育が実感される」という保護者からの言葉、連携を図りながら地域の子育て支援に取り組む職員の姿、そして何よりも子どもが生き活きと活動する姿から、保育内容が理念や方針に沿う保育となっていることがうかがえます。
- ・職員研修ではロールプレイをしながら子どもの思いに気づくようにし、子どもの気持ちや発言を受け止めた上で次の行動を促したり、援助したりしています。常に子どもの目線に立って保育するよう心がけています。
- ・気になる子どもについては、着替えの時などに全身の状態を確認し、園長への報告や記録をしています。注意を要する子どもの言葉や行動などについては、小さなことでも園長に報告・相談し、個人で判断しません。職員間で情報を共有し、解決に向けてできることを探して対応しています。保護者との

	<p>面談は一人で行わず、園長等複数の職員で行っています</p>
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専任講師や保育士による和太鼓指導、リズム体操では、全身運動でリズム感や運動神経を養うなど、音に合わせて体を動かすことを学んでいます。散歩の途中で摘んだつゆ草や野菜の皮を利用した草木染で自由に模様を描いたTシャツを作成し、夏祭りに着るなどの活動も取り入れています。 ・調理員が毎日、給食時間に見回りをしています。ロールパンにバターをつけないで食べる子ども、味付けが少し濃い目を好む子どもなど、一人ひとりの好き嫌いや量を把握し、次回の調理に活かしています。保育参観の日には、給食の試食会が設けられています。子ども達が育てて収穫した野菜で作ったオクラの味噌汁やゴーヤのお好み焼きなどを提供し、食育に対する園の取り組みを紹介しています。 ・個々の排泄のリズムを捉えてトイレ誘導をしたり、一人で排泄できたことを褒めたりしながら自立を促しています。おもらしをした時は、他の子どもに気付かれないように声かけをしています。午睡前は歌に合わせてゆっくりとトイレ誘導をしています。トイレトレーニングについては、連絡ノートを使って保護者と連絡を取りながら個別に対応しています。
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1～2歳児については、子どもとの愛着関係を築く大切な時期ととらえており、子ども3人に対して1人の主担当保育士を決め、食事介助、オムツの取替え、授乳など、生活面での関わりのなかで愛着関係が築けるように図っています。 ・子どもの健康管理はマニュアルに沿って行われています。入園時の母子健康手帳、既往歴成育の記録を参考に健康台帳が作成され、事務室に保管されています。入園後にかかった感染症等の疾病は、その都度書き加えられます。園児たちの日々の健康状態については保護者から口頭で聞き、乳児は「連絡帳」で、幼児は保護者が毎朝子どもの体温等を記録する「元気カード」で確認しています。 ・衛生管理マニュアルがあり、保育室内では、室内空気汚染事故対応マニュアルに従って保育室内の空気の清浄が維持されています。保育環境に関しては、おもちゃ、手指の消毒、砂場の衛生管理などマニュアルに沿って安全に整えられています。手洗いは、乳児は液体せっけん、幼児は固形石鹸と年齢に合わせて用意され、保護者、子ども、職員も手洗いをしてから入室しています。うがいなどの衛生習慣も、病気に負けない身体づくりのためにしっかりと実施されています。 ・餅つき、夏祭りなどの保護者との共催行事では、準備から開催当日まで保護者と協力して進めます。餅つきでは 子ども達が畑で育てた野菜を使った豚汁や大根おろしなどと一緒に食べて楽しみながら交流を深めています。保護者会と連携をとり、路上駐車禁止の取り組みや近所へのあいさつなどを行い、地域との良好な関係作りを図っています。また、保護者会で園庭の遊具の修理を行ってもらうなど、子ども達の環境作りを通してコミュニケーションを深めています。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度子育て支援事業は、園庭開放など8種類の事業を実施し、ほぼ毎日活動が展開されています。毎月、毎日のミーティングでも、日常的に支援事業について職員間で話し合いがもたれています。子育て支援の行事ごとに記録・反省を行い、次回に活かしています。年度末には総合的な反省会を開き、次年度の支援計画や活動内容を決めています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て中の親子を毎月のお誕生会に招待して一緒に誕生児を祝い、記念に身長・体重・手形を入れた誕生カードのプレゼントをしています。地域で活動している和太鼓集団に毎月来てもらい、和太鼓を通した音楽交流をしています。また、園庭・室内開放の時には絵本の貸出も行っています。 ・小学校の2年生と年長児との交流を行っています。学校見学や給食体験を通して、小学校の生活を見る機会となっています。小学校とは、お買い物ごっこ、ゲームなど、年2回の交流が図られています。 ・ボランティアの受け入れに当たり、職員や子どもや保護者に対して、基本的な考え方・方針についての十分な説明や資料等の作成はされていません。今後は、子どもたちに対してもあらかじめ受け入れについて説明することが望まれます。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「奈良保育園の職員が、環境を守るために取り組むこと」「有意義な環境側面を実行していくこと」「子どもたちに物を大切にすることを育てましょう」など、環境への取り組みを明文化し、園内の随所に掲示しています。 ・主任は積極的に職員とのコミュニケーションを図り、日常的に職員の相談に乗り、良好な人間関係を築き、連携して業務に臨んでいます。また、園長を補佐し、園長不在時には業務を代行させる等、スーパーバイザーの養成にも努めています。 ・横浜市次世代育成支援行動計画「かがやけ横浜こども青少年プラン」や青葉区の区政運営方針をもとに運営しています。今後の保育園のあり方をテーマに、近隣の保育園・幼稚園との顔の見える関係・ネットワークの構築という事業の方向性を示し、運営や新たなプロセスの仕組みを検討しています。家庭における育児力の低下、虐待問題、待機児童等、具体的な支援のあり方について職員と話し合い、取り組んでいます。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生の受け入れの最終日には反省会を設け、関わった保育士が全員参加してアドバイスをしています。実習生からは、「先生たちが穏やかに子どもと接している」「注意するときにはそばに行き、本人に寄り添って伝えている」等の感想が述べられています。 ・「こんなことをしてみたい」「こんな保育園だったら良いな」と思う「夢プラン」を全職員が作成しています。自己申告書を活用し、「夢プラン」のもとに各自の目標を定めて行動に移し、年2回、達成度の評価を行っています。 ・園長や他講師による年間10回にわたる園内研修が実施されています。「個人情報取り扱いやコンプライアンスについて」等の基本的内容を始めとし、職員がやりたいことを出し合って計画し、興味を深めることができるようにしています。「水田体験」「草花遊び」など園独自の取り組みが見られます。職員・非常勤職員が共に参加できるよう夜時間を活用するなどの工夫もしています。